

各 位

上場会社名	株式会社 城南進学研究社
代表者	代表取締役社長 下村 勝己
(コード番号)	4720)
問合せ先責任者	取締役管理部長 北村 次人
(TEL)	044-246-1951)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年5月15日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位: 百万円)

平成21年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,887	129	142	183	21.77
今回発表予想(B)	2,696	△69	△48	△169	△20.20
増減額(B-A)	△190	△199	△191	△352	――
増減率(%)	△6.6	――	――	――	――
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	3,041	164	308	263	31.22

平成21年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	5,552	31	55	89	10.62
今回発表予想(B)	4,954	△906	△864	△996	△120.00
増減額(B-A)	△597	△937	△919	△1,085	――
増減率(%)	△10.8	――	――	――	――
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	5,545	△125	104	21	2.56

修正の理由

大学受験部門においては内部体制の強化および質的向上に注力し、9月入学者数には効果が現れました。しかし、年々増加する現役高校生の推薦希望者や高校における補習授業の強化等により、夏期講習の集客が予定を下回り、前期からの継続生の減少幅を新規生で挽回するまでには至りませんでした。同様の傾向は個別指導部門でも見受けられ、小中学生は増加したものの、単価の高い高校生の募集が見込み数には達しませんでした。

売上高については、前述した推薦希望者の増加や高校側の生徒の困り込み等の影響により、単価の高い現役高校生の、特に受験学年の入学者数が当初見込みには達しなかったために減少とし、加えて経費面では第3四半期以降の冬期講習に向けて大学受験部門、個別指導部門ともに宣伝広告費を追加することにより、営業利益、経常利益ともに減少を見込みます。

また、特別損失として固定資産の減損損失68百万円、投資有価証券評価損31百万円、業績回復のスピードアップを計るためのスクラップアンドビルド費用として校舎再編成損失引当金繰入額54百万円を計上する予定であります。

以上の結果として、売上高は2,696百万円となり、営業損失69百万円、経常損失48百万円、当期純損失が169百万円となる見込みであります。

(通期)

通期につきましては、前述のように夏期講習において現役高校生の集客が予定を下回ったため、夏期講習生からの継続入学や2学期以降の新規の入学者についても、減少が見込まれ、第3四半期以降における売上は従来予想を下回ると考えられます。

経費面では、来期の確実な業績回復を図るため、今期後半から各事業部の積極的な投資として、交通広告を利用した宣伝広告費320百万円や開校費用の一部前倒しを新たに見込んでおります。

以上の結果として、売上高は4,954百万円となり、営業損失906百万円、経常損失864百万円、当期純損失は996百万円となる見込みであります。

※上記予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上